

平成27年9月15日

平成27年度病虫害発生予報第6号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病	並	並
	トビイロウンカ	やや少	やや少
大豆	ハスモンヨトウ (防除情報第12号)	やや多	やや多
	吸実性カメムシ類	並	並
いちご	うどんこ病	並	並
	炭疽病 ( <i>G. cingulata</i> )	やや多	やや多
	ハダニ類 (防除情報第13号)	やや多	やや多
	ハスモンヨトウ	少	並
アスパラガス	斑点性病害	やや多	やや多
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	緑かび病、青かび病	—	やや多
	ミカンハダニ	並	並
果樹共通	カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病	やや多	やや多
	カンザワハダニ	並	並
	チャノキイロアザミウマ	やや少	やや少
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや少	やや少
	クワシロカイガラムシ	並	並

【発生予報】 本文の ( ) 内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(87筆)の結果、発病株率は1.0%(2.7%)、発生圃場率は28.7%(39.1%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は62.5%(41.9%)であった。

2. トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(87筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(1.0頭)、発生圃場率は42.5%(56.3%)であった。短翅型雌成虫の株当たり虫数は、8月下旬の巡回調査では0.0頭(過去8年平均0.1頭)、発生圃場率は

4.3%（過去8カ年平均19.2%）、9月上旬の巡回調査では0.0頭（過去8カ年平均0.1頭）、発生圃場率は2.3%（過去8カ年平均32.2%）と平年より少なかった。

イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、株当たり虫数は0.0頭（5.1頭）、寄生株率は4.0%（65.3%）、であった。

大豆

1. ハスモンヨトウ

平成27年9月15日付け、**病害虫発生予察防除情報第12号**による。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（15筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率0.5%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率14.9%）。

イ 9月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、寄生株率は2.0%（5.3%）、株当たり虫数は0.02頭（0.06頭）であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率2.3%）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発病株率は0.1%（0.5%）、発生圃場率は24.2%（15.1%）であった。

イ 7月上旬に行ったエタノール噴霧法による炭疽病菌の潜在感染株調査の結果、潜在感染株率は61.1%（過去4ヶ年平均35.1%）と5ヶ年の調査の中で最も高かった。

ウ 本年は8月以降多雨傾向で推移し、本病の感染に好適な条件が続いた。

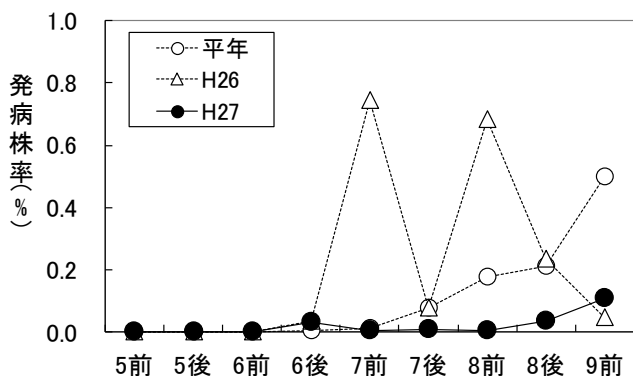


図 炭疽病 (*G. cingulata*) 発病株率の推移

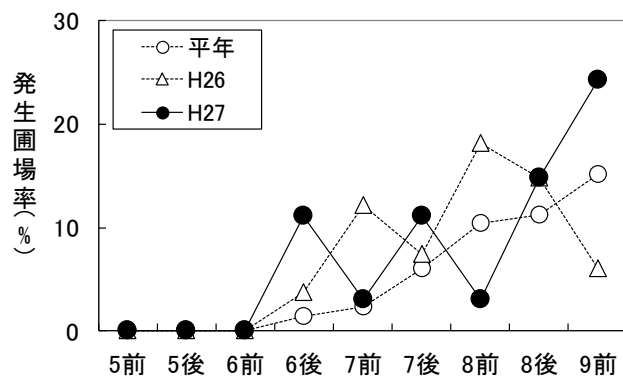


図 炭疽病 (*G. cingulata*) 発生圃場率の推移

### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病株およびその周辺の株は速やかに処分するとともに、定植前の選別を徹底し、疑わしい株は定植しない。
- イ 本圃で発病を認めた場合は速やかに抜き取り圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は伝染源となるので圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 強風雨や台風の前夜など発生のおそれがあるときは薬剤散布を徹底する。

## 3. ハダニ類

平成27年9月15日付け**病害虫発生予察防除情報第13号**による。

## 4. ハスモンヨトウ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査(33筆)の結果、食害株率は0.4%(2.3%)、発生圃場率は9.1%(32.4%)であった。
- イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、8月6半旬に増加し、その後平年より高い誘殺量で推移している(大豆の項参照)。

## アスパラガス

### 1. 斑点性病害

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病側枝率は20.9%(過去8ヶ年平均3.8%)、発生圃場率は75.0%(過去8ヶ年平均39.8%)であり、一部多発圃場があった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 通風の悪い条件下で発生しやすいため、過繁茂にならないよう茎葉の整理等を行い、換気を徹底することで本病の発生抑制に努める。
- イ 罹病葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

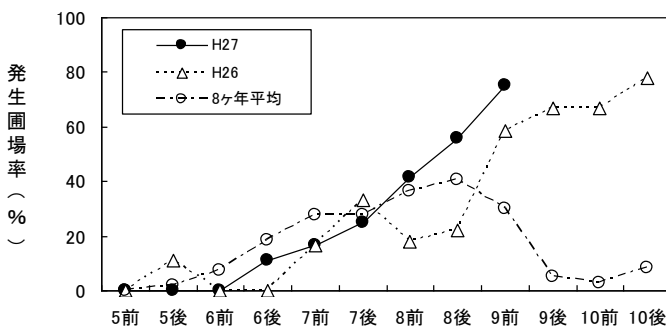


図 斑点性病害発生圃場率の推移

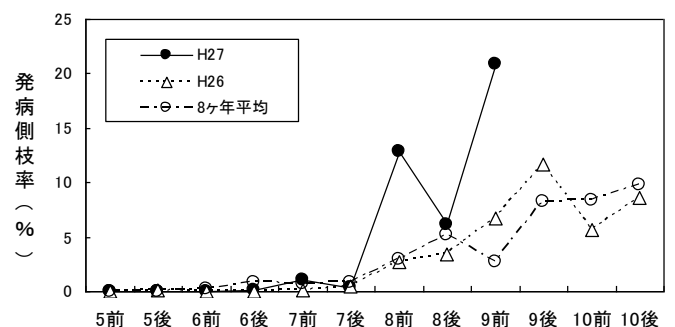


図 斑点性病害発病側枝率の推移

### 2. アザミウマ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は5.4頭(過去8ヶ年平均6.4頭)、

発生圃場率は66.7%であった（過去8カ年平均55.7%）。

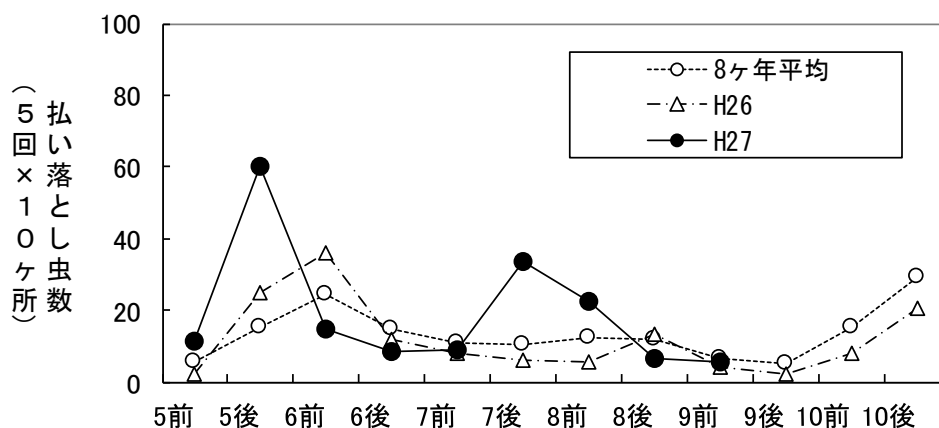


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移  
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去する。
- イ 薬剤散布は株の内部まで十分付着するよう丁寧に行う。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

かんきつ

1. 緑かび病、青かび病

- (1) 予報内容  
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠  
向こう1か月間の降水量は平年より多い見込みである。

2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容  
発生程度 並
- (2) 予報の根拠  
9月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は2.6%(6.1%)、発生圃場率は30.6%(48.4%)であった。

果樹共通

1. カメムシ類

- (1) 予報内容  
発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ア 新世代成虫の発生量は少ない見込みである（平成27年8月18日付け**病害虫発生予察技術情報第3号**参照）。
  - イ 9月上旬の巡回調査(36筆)の結果、一部のカンキツ園で発生を認めている。
  - ウ 県内各地の予察灯による誘殺状況によると、8月以降は平年並～やや少ない誘殺数で推移している(図)。

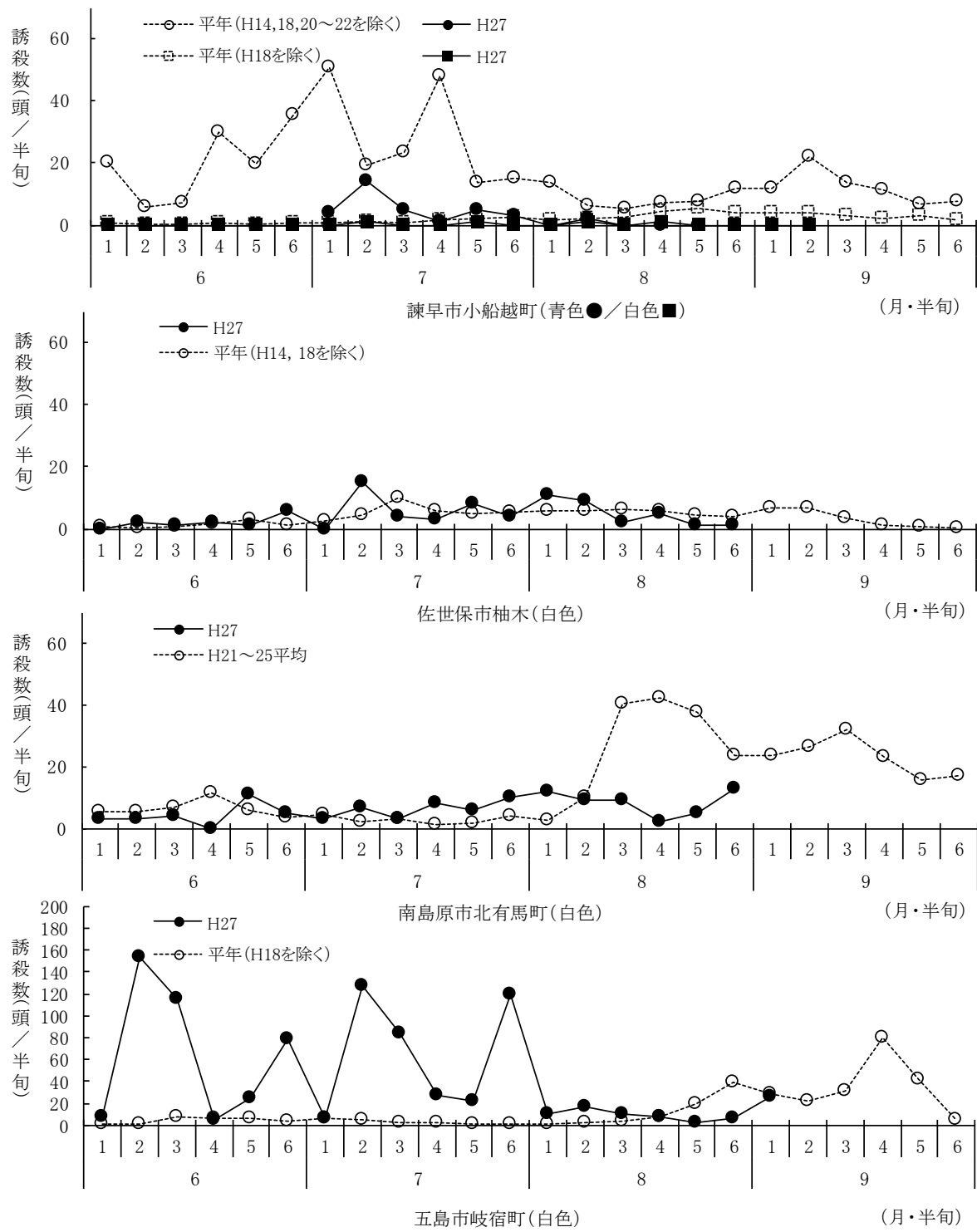


図 果樹カメムシ類誘殺状況(予察灯; 白色、青色)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 果樹園の見回りを徹底し、飛来や被害果が見られたら早急に防除を行う。
- イ カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来し、果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発病葉率は6.9%(5.4%)、発生圃場率は75.0%(50.0%)であった。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は2.0%(1.0%)、発生圃場率は30.0%(20.0%)であった。

イ 向こう1か月間の降水量は平年より多い見込みである。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は4.1頭(19.9頭)、発生圃場率は80.0%(84.7%)であった。

4. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.5枚(0.3枚)、発生圃場率は15.0%(16.3%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

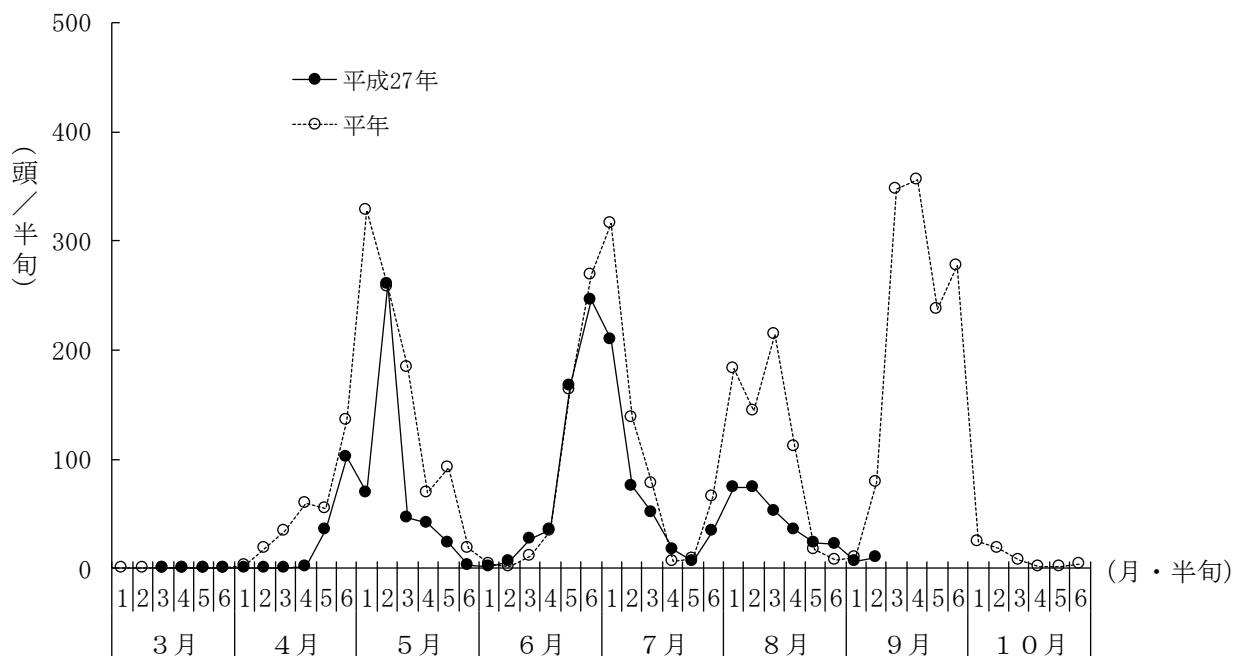


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.3枚（1.1枚）、発生圃場率は15.0%（35.6%）であった。
- イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年並で推移している（図）。

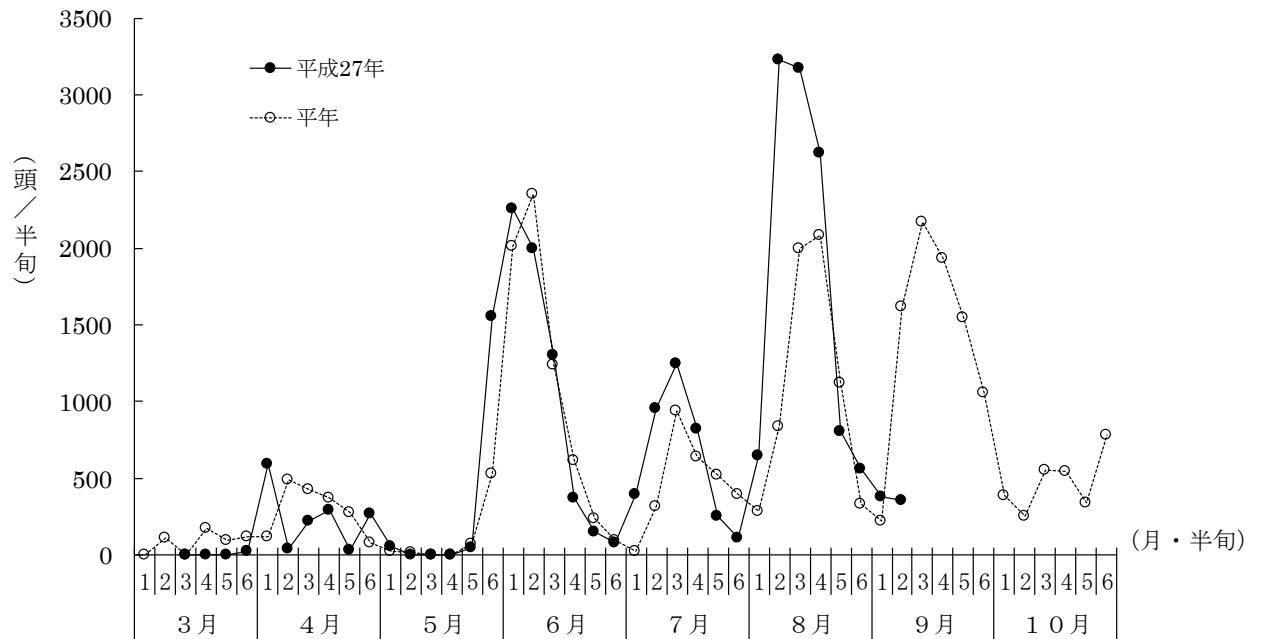


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

## 6. チャノミドリヒメヨコバイ

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は0.4頭（1.8頭）、発生圃場率は15.0%（56.3%）であった。

## 7. クワシロカイガラムシ

### (1) 予報内容

発生程度 並

### (2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は2.3%（3.8%）、発生圃場率は20.0%（27.5%）であった。

【参考】

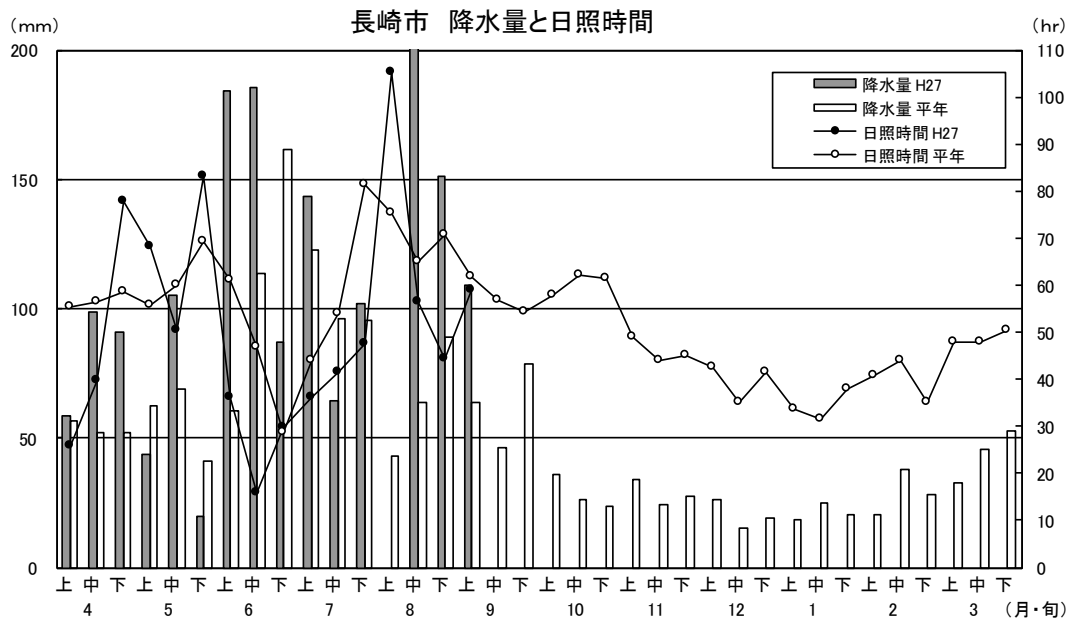
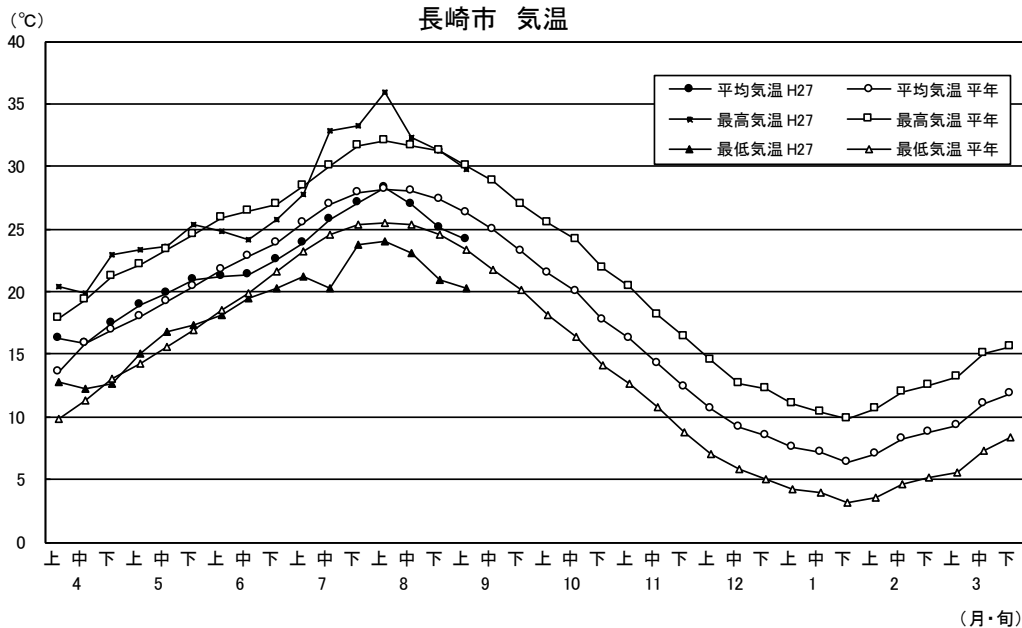
気象 (平成27年9月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

平成27年度の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

